

営農情報 (大豆)

令和5年9月6日

J A福岡大城、久留米・南筑後普及指導センター

1 生育概況

8月以降、乾燥状態が続き、同じ播種日でも、夕立など降雨量の違いによって生育差がある状況です。ほ場の状況をよく観察し、適期作業に努めましょう。

2 病虫害防除

9月上旬までに白変葉が多い場合は、プレオフロアブル(50~100ml/水100L/10a)を散布します。ほ場に白変葉が見られない場合は、カメムシ類・紫斑病と合わせて、下記の時期に防除します。

①【ハスモンヨトウ・カメムシ類・紫斑病対策】

○防除時期目安

播種時期	開花期目安	防除時期目安(開花後20~30日頃)
7月14~20日	8月25日頃	9月15~25日頃
7月20日以降	8月30日~	9月20~30日頃

対象病虫害	薬剤名	希釈倍率	100Lあたり薬剤量	散布量	使用回数
ハスモンヨトウ	プレオフロアブル5	4000倍	25mL	100~300L /10a (3剤混合)	2回以内
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	50mL		2回以内
紫斑病	トップジンM水和剤	700~1500倍	70~140mL		4回以内

※散布量(100~300L/10a)は、大豆の生育状況に応じて調節してください。

②補正防除【カメムシ類対策】10月1~10日頃

※3種混合防除の10日後頃に行います。

対象病虫害	薬剤名	希釈倍率	散布量	使用回数	使用時期
カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	100~300L	2回以内	収穫7日前まで

薬剤抵抗性の発達を防ぐために、同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がけます。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!